

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平2-108346

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成2年(1990)4月20日

H 04 L 12/54
12/58

7830-5K H 04 L 11/20 101 B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式

⑯ 特 願 昭63-281855

⑰ 出 願 昭63(1988)10月18日

⑱ 発 明 者 吉 野 祐 介 東京都新宿区西新宿3丁目16番6号 西新宿水野ビル 富士ゼロックス株式会社内

⑲ 出 願 人 富士ゼロックス株式会社 東京都港区赤坂3丁目3番5号

⑳ 代 理 人 弁理士 木村 高久

明 細 書

1. 発明の名称

電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式

2. 特許請求の範囲

メールボックスを有するメールサーバとワークステーションとをネットワークを通じて接続し、前記メールボックスに一旦保管されたメッセージを前記ワークステーションにて読み出す電子メールシステムにおいて、

前記メールボックス内のメッセージを読み出すに際し、前記メッセージについて前記サーバおよび保管のうちのいずれかを前記ワークステーションから前記メールサーバに指定する指定手段と、

該メッセージについて前記指定された場合は読み出された該メッセージを該メールボックスから読み出し、該メッセージについて保管が指定された場合は読み出された該メッセージを該メールボックスに保管し続ける手段と

を特徴としたことを特徴とする電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、電子メールシステムにおけるメッセージ取り出し方式に関する。

(従来の技術)

周知のように電子メールシステムにおいては、メールボックスを有するメールサーバとワークステーションとをネットワークを通じて接続しており、メールボックスに一旦保管されたメッセージをワークステーションにて読み出すことが可能である。

(発明が解決しようとする課題)

しかしながら、従来の電子メールシステムではワークステーションにてメッセージを読み出すと、これに伴い該メッセージがメールボックスから消去されていたので、同一のメッセージをメールボックスから繰り返し読み出すことができなかった。このため、例えばオペレータ自身のオフィ